令和4年度 大田区立蓮沼中学校 自己評価 報告書

令和5年2月27日

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
									評価	人数	コメント
プラン１　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:「配布されたタブレットを学校や自宅で活用し学習している。」とアンケートで回答した生徒の割合が90%以上。	4:	3.2	・視覚的資料を提示するためにICTを活用している。・ほぼ毎時間、ICT機器を活用している。・ICTは保健授業時に実施することが多い。・体育時は運動量の低下が懸念されるが、ICTを器械運動で取り入れている。・ICTを活用した授業を実施した。不登校生徒へのオンライン授業を配信した。・授業では、ICTを活用し生徒の情報活用能力や学習意欲を高める工夫を模索しつつ行ってきた。今後も改善しながら続けていきたい。・単元によっては、ICTを活用し、生徒の学力の定着と意欲の伸長を目指す授業を実施したが、週1回以上はできていない。・単元によりかたよりがでてしまうが、教材研究により週1回以上できるように考えたい。・視覚的資料を提示するためにICTを活用している。・ほぼ毎時間、ICT機器を活用している。・学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指して、ICT機器の活用を実践している。・ICT機器の授業内での活用場面（どのタイミングで？どの程度?）をさらに見極めながら授業実践をしたい。・Jamboard等を活用し、グループ活動を行った。・教科で探究的な学習を実践しながら、ICT機器も活用する場面を設けている。・視覚的資料を提示するためにICTを活用している。 ・人権に関しては、道徳の授業の中で適宜指導を行っている。・道徳授業をはじめ、常日頃からあらゆる場面で人権尊重に関わる指導を行っている。・人権プログラムに取り上げられている人権課題について、解決策を探る授業を行った。・人権教育担当として、校内研修等は実施したが、授業等には活かせなかったので、授業に活かせるような研修内容にする。・主に道徳で、人権教育の推進に関わる課題を設定して授業を実施している。・人権に関しては、道徳の授業の中で適宜指導を行っている。 ・探究的な学びについては、生徒自身が課題を見つけて、解決のために取り組む活動のため、授業に余裕がもてない3年生では実施が難しかった。・教科に探究的な学びを課すのは難しく、課題解決的な学習とする方が良いと考える。・常日頃から授業の中で探究的な学習を進めている。・ICTはデジタル教科書のみをつかっていたが、他のアプリケーションなども使って、探究的な学びにつなげていきたい。・図形の単元で、図形の性質を根拠になぜそうなるのか、論理的にグループ内で説明し合う授業を行った。 ・「おおたのものづくり」について理解をすることから始める。	A	5	・「論理的、科学的な思考の育成」の取り組みの自己評価が、他の項目に比べて低い。今後この点に配慮した教育に努めてほしい。 ・ICTを活用し、視覚的資料の種類が増えることで、授業が充実している。今後の期待としては、ICTを活用し、コミュニケーション、学習発表、他のアプリケーションの活用、アンケート機能を用いた活動など、多くの学びにつなげてほしい。 ・ICTの活用について、工夫されている様子がみられます。 ・ICTの活用により、在宅でも授業が受けられる環境ができたのは良い。 ・全体に学校、教員の努力がよく見えます。個別的な評価は、わかりません。 ・日本より世界ではICT機器の使用が進んでいると聞きます。機器と人権との関わりは難しいところです。 ・総合的には良いと思いますが、課題の先に興味をもてるようなことを提示しては？興味をもつと自発的に取り組むようになるのでは？
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	2	3:「配布されたタブレットを学校や自宅で活用し学習している。」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。	3:			B	6	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	3.4	2:「配布されたタブレットを学校や自宅で活用し学習している。」とアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。	2:			C	0	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	1:70%未満	1:			D	0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3.6							
		探求的な学びを実践していく中でICTを活用する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3.4							
プラン２　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	4:「学級の友達（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。	4:	2.8	・常日頃から、生徒の学習については丁寧に指導を行い、習熟度に合わせた授業を行っている。生徒への個別の支援を丁寧に行っている。・三者面談等の際に学習カルテを使用して指導した。・月数回補習を行っている。・毎年授業改善プランを作成し、それに基づいて指導している。・４人組活動をほぼ毎時間実施し、考えをもち、考えを深める授業を実施している。・先輩教員の授業を週に１～２回程度参観していたが、今後はその回数をもっと増やし自分の授業力の改善に務めるとともに、ICTの活用例も学んで行きたい。・個別の課題を体育授業時に提案し、生徒の実態を考慮した指導を展開しようと試みた。・三者面談での保護者との共有を行った。・授業改善プランを生かした課題設定をした。・４人組の協働学習を実施した。・学習カルテの効果的な活用方法を教育委員会が示す。・４人組での問題解決学習を行った。・ICTを授業で活用することは、色々試みることができたが「言語活動」という点ではまだまだ工夫が必要に感じている。・学習カルテやステップ学習チェックシートの活用ができなかった。意識していなかったので、どう生かしていくか考えたい。・言語活動を充実させるために、どう4人組を活用するか授業展開を考え工夫した。・「主体的・対話的で深い学び」に取り組み、言語活動を充実させるために、授業を工夫する。・言語活動において、話し合わせるに足る内容を今後も検討していく。・チェックシートの配布を行う。・「ステップ学習チェックシート」を活用することができなかった。来年度は活用できるよう年度当初に計画をする。・ICTについては、日々の授業でデジタル教科書を使用している。また、個人の学習用タブレットを使用してレポートの作成をするなどしている。・年間を通して、計画的に補習教室を実施している。生徒へ積極的な参加を促している。・教科毎に授業改善プランを作成し、日頃の教科指導に活かしている。・4人組による話し合い活動を全教科で推進している。それにより、言語活動の充実、深い学びに結びついている。常日頃から、生徒の学習については丁寧に指導を行い、習熟度に合わせた授業を行っている。・生徒への個別の支援を丁寧に行っている。	A	3	・生徒一人一人に合った授業は難しいですが、少しでも意欲が向上することを願います。 ・４人組活動の取り組みは新たに取り入れたことで、生徒の反応と実際の成果が知りたい。補習授業の参加率が低かったとお聞きしたので、生徒が自主的に参加できるような働きかけも必要だと感じられた。 ・今年度も教員の授業参観の機会をいただき、ありがとうございました。初任者、若手教員同士、同じ教科、分掌主任間等で意見交換等ができると相互に有益ではないかと考えます。(大森高校) ・公立校の学力に対して、非常に難しい、大変なことだと思います。 ・同じくらいの学力の生徒を集めて、補習をしてみれば少しでも取り組むようになるのでは？ ・ステップ学習チェックシートの活用、どう生かしていくか十分検討されたい。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	1	3:「学級の友達（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」とアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。	3:			B	8	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	3.2	2:「学級の友達（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」とアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。	2:			C	0	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3.4	1:60%未満	1:			D	0	
		「主体的・対話的で深い学び」に取り組み、言語活動を充実させるために、授業を工夫する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3.6							
プラン３　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3.6	4:「自分にはよいところがあると思う」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。	4:	2.8	・担任、保護者で密に連絡をとりながら生徒の様子について共有している。・常日頃から小学校での既習事項等を思い浮かばせながら、授業を進めている。・ほぼ毎回道徳授業において考える道徳を進めさせている。・学校生活調査を実施し分析し、問題がある生徒への対応をしている。・常日頃から情報交換を密にし、いじめや不登校の防止に取り組んでいる。・人権に関する研修を年間計画に基づいて進めている。・次が空き時間のときや、昼休みに学年の廊下にいることがあったが、今後は、昼休みに仕事がない場合学年の廊下に必ずいて、生徒たちの行動や関係等を観察して生徒指導等に生かしていきたい。・集団行動が苦手である生徒が多いため、授業時には規律をただすように心がけている。・学年として不登校傾向生徒、登校しぶりの生徒が多い。早めに本人、保護者とコミュニケーションを図る。・不登校生徒の情報共有を定期的に実施した。 ・学校生活調査の結果を学年で共有し、配慮が必要な生徒に対して面談等で本人の状況を確認した。・生徒とは良好な関係を築き、話しやすい環境づくりを行ってきた。ある程度は成功しているように感じる。・少し先の将来まで見据えた生活指導を心がけ、その場だけで終わらない指導になるよう努力してきた。・道徳授業は、生徒の豊かな心の育成のために、その時の生徒の実態にあった題材を使用し授業を行ってきた。・学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。・学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。・それぞれの当該生徒に対しての取り組みを、具体的な成果につなげていきたい。・今後も小中連携を続けていく。・人権教育研修の年間計画を5回しか設定をしていなかったので、来年度は学期に2～3回（年6回以上）実施できるよう計画をする。・学校生活調査やいじめアンケートなどで、気になる生徒は学年の教員で分担し、そのときに関わりができる教員が聞き取りを行い、必要なところにつなげたり、学年内で情報の共有を行っている。・校内で支援が必要な生徒の現状を把握し、不登校支援委員会やカウンセラー、保護者等と連携して、個別の細かい支援に結びつける。登校できるように根気強く支援体制を継続する。・担任、保護者で密に連絡をとりながら生徒の様子について共有している。・道徳教育の充実については、年間指導計画と実際の指導に齟齬がないかどうか、各学年の道徳担当が学期に一度程度、報告を行った方がいいかと思う。・各学年でどのように道徳が行われているか、学校として把握しづらい。・いじめ不登校対策委員会において、生徒の状況を把握し、保健室で関わることのできる生徒に対して対応ができた。今後とも学年と十分に連携をとりながら、関わりの持てる生徒を増やしていきたい。	A	4	・学年担任制の取り組みは、まだ手探りの部分もあるかと思いますが、４人組での協働学習など工夫が見られたのは良い。 ・自己肯定感が低いと何事も前向きになれないと思うので、一番大切なことだと思います。学校でも特に力を入れてほしいと思います。 ・学年を超えた交流がもっとあると、生徒の学びにつながると思う。 ・不登校はこの10年くらいで倍増していると聞いています。いじめの対策ばかりでは決定打ではないのですね。 ・コロナ禍で他の人たちと会うことができなかったので、今後地域の人たちなどとボランティア等ができれば他の人の考え方などを知る機会になるのでは？
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	2.4	3:「自分にはよいところがあると思う」とアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。	3:			B	7	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3.8	2:「自分にはよいところがあると思う」とアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。	2:			C	0	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3.7	1:60%未満	1:			D	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3.6							
		人権課題について学び、自分自身の人権意識を高めるとともに、人権教育を充実させる。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3.2							
プラン４　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3.7	4:「学校（部活動、休み時間等）や家庭（習い事等）で自ら体を動かす習慣がある」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。	4:	3.6	・生活習慣の確立の重要性については学級だよりなどを使用して繰り返し指導を行っている。・今後は養護教諭や栄養教諭による授業を実施できればよい。・食品ロスの話をしながら残食ゼロを目指せるように指導していきたい。・常日頃から注意し続けている。・毎回の給食時間に望ましい態度で食事をするよう話している。・保健体育時において、健康・安全について指導を行う。・早寝早起き朝ごはんの記録シートを活用した振り返りを実施した。・養護教諭や学校栄養士による授業が必要。・規則正しい生活を送るよう、折に触れ学活などで話題に出し生徒たちに話している。・規則正しい生活習慣を見つけられるよう、学年だよりなどを活用した啓発を行うことができた。・生活習慣の乱れがどのような生活につながるのかなど、より具体的な例を示しながら、さらに啓発を行っていきたい。・教員の勤務時間を考慮しながら、部活動を行っていく。・食育に関して触れたことがないので、食育に必要な知識を理解し、生徒への指導に活かす。・校内の定期的な人権教育研修の実施により、学んだことを日頃の教育活動に還元している。 ・教科において、「食育」をテーマとした課題設定の導入を検討していく。・生活習慣の確立の重要性については学級だよりなどを使用して繰り返し指導を行っている。今後は養護教諭や栄養教諭による授業を実施できればよい。・「早寝・早起き・朝ごはん」については、1週間の生活チェックを行い、自身の生活を振り返らせることができた。今後も年2回は同様のチェックを行いたいと考えている。	A	5	・先生は、生徒指導に対して、適切な言葉や態度で行ってほしい。言葉遣いが悪い等、保護者から多数の声を聞いています。 ・規則正しい生活習慣は大事であり、運動することの大切さも生徒に理解してもらいたい。 ・スポーツをすること、体を動かすことが楽しく感じられるよう導いてください。 ・食育について、小学校の時に比べ、子どもから給食について話を聞くことが少ない。食育という点では、給食の時に先生から話題を振る、献立表の工夫など、興味を引くようにするのもよいと思った。 ・スポーツの育成はよいと思いますが、先生方の負担はどうなのですか？先生の過重労働も問題ではないでしょうか。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3.3	3:「学校（部活動、休み時間等）や家庭（習い事等）で自ら体を動かす習慣がある」とアンケートで回答した生徒の割合が65%以上。	3:			B	4	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3.8	2:「学校（部活動、休み時間等）や家庭（習い事等）で自ら体を動かす習慣がある」とアンケートで回答した生徒の割合が50%以上。	2:			C	0	
					1:50%未満	1:			D	0	
プラン５　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3.8	4:「私は、学校生活をよりよくするために意見を述べ行動している。」とアンケートで回答した生徒の割合が50%以上。	4:	3.3	・生徒理解を深め、生徒に合った教材で授業ができるようその都度改善を行うようにしている。・アンケート結果を共有している。・常日頃から研究とタイアップしたOJTを進めている。・対象となりそうな生徒について組織的に実施している。・生活指導部を中心に、生徒会を活発に動かして見直しを進めている。・他者の授業を見学するケースとで取り入れられることを探し、自らの授業に還元する。・生活の決まりを見直した。・夏休みを利用して、東京都の研修を受講し授業改善に取り組むことができた。まだ十分とは言えないので今後も研鑽をつんでいきたい。・校内委員会（いじめ・不登校対策）を定期的に開き、生徒の情報を共有することができた。・委員会での情報共有にとどまらず、より効果的な対策に結びつけることで、生徒の学びを支援していきたい。・学期に2回程度教科間の主任による研修を企画する。・各種研修会等に参加をしたが、自分の授業に活かすことができなかった。・授業改善については、区の研修や年次の研修を通して、学んだことを授業に生かした。・授業公開日の授業評価アンケート結果を、授業改善に活用している。・定期的な校内研修で教員間の学び合いを充実させ、OJTの体制を強化して研究を推進している。・生活のきまりについて生徒会や生活指導部が中心となり、生徒が主体的に生活の決まりの見直しを検討できる機会を設定している。・生徒理解を深め、生徒に合った教材で授業ができるようその都度改善を行うようにしている。・特別支援教育については、支援が必要な生徒に支援ができていないと感じている。・今後は巡回相談を有効に利用し教員に周知できるようにする。また、サポートルームの入室を積極的にすすめたい。	A	5	・学校公開の保護者アンケートの内容と、学校が改善について、その後の結果を知りたい。アンケートを出す場合その後どうだったかを共有しないと、その後のアンケートに協力する人が減ってしまう。 ・蓮沼中だけのことではないのでしょうが、ゆとりをもって進めていただきたい。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3.1	3:「私は、学校生活をよりよくするために意見を述べ行動している。」とアンケートで回答した生徒の割合が40%以上。	3:			B	4	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3.2	2:「私は、学校生活をよりよくするために意見を述べ行動している。」とアンケートで回答した生徒の割合が30%以上。	2:			C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	2.8	1:30%未満	1:			D	0	
		生徒自ら考えることができる「生活のきまり」になるような見直しを行う。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3.6							
プラン６　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	3.1	4:「学校は、保護者の意見や要望に耳を傾けている。」とアンケートで回答した保護者の割合が85%以上。	4:	2.8	・学級だよりを通して日頃の様子をお知らせすることができた。・HP等で発信している。・各種アンケート調査を実施し、分析し、協議し、よりよい学校運営の一助としている。・コロナを乗り越えて協力体制を復活させつつある。・学年便りなどを活用し、できる限り情報公開するように努める。・HPが更新されていた。・学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。・地域人材の発掘と学校教育を結びつける機会を今後探っていきたい。・地域の方の意見を参考に、より生徒と地域の関わり深めることができるような、ボランティア活動や特別活動を計画する。・学校支援地域本部についてそもそも理解をしていない。理解をすることから始める。・開かれた学校として、学年便りやホームページなどを活用し、情報発信できる機会を増やしていく。・地域の方々にいただいたご意見を、教育活動に積極的に取り入れていく。・学級だよりを通して日頃の様子をお知らせすることができた。・学校支援地域本部との連携にはまだ課題があるので、メンバーに任ぜられている方々との話し合いの場を設定し、学校環境・教育環境の充実等に、組織的・現実的に何ができるか検討していきたい。	A	3	・行事を通して実際に生徒ががんばっている姿を見ることができなくて残念でした。 ・コロナ禍で地域のボランティアに参加できない中、学校としても大変だと思いますが、がんばってほしいです。 ・地域連絡協議会、蓮中便り等で生徒の状況を知ることができました。学校支援地域をもっと活性化し、地域と交流していくと良いと思います。 ・学校ホームページの充実を望みます。保護者が学校のことを知る機会が少ないため。 ・蓮沼中の学校、家庭、地域の特色がだせるよう期待しています。 ・朝、落ち葉掃きなどをしている生徒さんを見かけました。多くの葉が落ちており、掃いた後は見違えるようにきれいになり、すがすがしさを感じました。コロナの状況がもう少し落ち着いたら、中学生と高校生とで一緒に地域貢献ができる機会がもてたらいいと思います。よろしくお願いいたします。（大森高校）
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3.4	3:「学校は、保護者の意見や要望に耳を傾けている。」とアンケートで回答した保護者の割合が75%以上。	3:			B	6	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	2	2:「学校は、保護者の意見や要望に耳を傾けている。」とアンケートで回答した保護者の割合が65%以上。	2:			C	0	
					1:65%未満	1:			D	0	

○「成果評価」は、各校が４段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の４点について、評価した人数を記載する。